

Evaluation of the fatty liver index as a predictor for the development of diabetes among insurance beneficiaries with prediabetes

西, 巧

<https://hdl.handle.net/2324/1654734>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

(別紙様式2)

氏名	西 巧
論文名	Evaluation of the fatty liver index as a predictor for the development of diabetes among insurance beneficiaries with prediabetes
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 清原 裕 副 査 九州大学 教授 萩原 明人 副 査 九州大学 教授 鴨打 正浩

論文審査の結果の要旨

非アルコール性脂肪肝(NAFLD)は先進国で最も多い肝疾患であり、糖尿病あるいは前糖尿病の危険因子であるとの報告がある。NAFLDの診断には肝生検、超音波検査や核磁気共鳴スペクトロスコピーなどが使われるが、より簡便な指標として中性脂肪、GGT、body mass index、腹囲から算出されるfatty liver index (FLI) が提唱されている。本研究では、特定健康診査の受診者を対象とした後ろ向きコホート研究において、FLIで定義したNAFLDと糖尿病発症リスクとの関係を検討し、この指標の有用性を評価した。

2つ健康保険組合のレセプトデータより、非飲酒者あるいは少量飲酒者(アルコール摂取量20g/日未満)で前糖尿病を有する40歳以上の967人を抽出した。前糖尿病はヘモグロビン(Hb)A1cが5.7-6.4%および糖尿病未治療で、糖尿病はHbA1c6.5%以上あるいは糖尿病治療ありで定義した。この対象者をFLIの値で30未満、30-59、60以上の3群に分けて3年間追跡した結果、89人(男性65人、女性24人)が糖尿病に移行した。

FLIのレベルと糖尿病発症の関係を他の危険因子(年齢、喫煙、身体活動、就寝前の食事、早食い、高血圧、高コレステロール血症、居住県)を調整して検討すると、FLIのレベルが高くなるとともに糖尿病発症リスクは上昇し、FLI60以上で定義したNAFLDは糖尿病の有意な危険因子であった(男性:オッズ比2.68、95%信頼区間1.29-5.56、女性:10.35、3.22-33.31)。以上より、FLIは糖尿病発症リスクが高い者を同定するうえで有用であることが示唆される。

本論文の成績は、この方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まずこの研究の背景、目的、方法、結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについてもおおむね適切な回答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。